

日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS

水谷雅一賞創設について

< 学会賞創設の趣意と創作者・水谷雅一先生の想い >

会長 潜道 文子 (拓殖大学 副学長・教授)

会員の皆様にご案内させていただいておりますように、この度、日本経営倫理学会 (JABES) は学会賞を創設することとなりました。2021年6月に開催予定の総会にて、第1回授賞式を執り行うことを計画しております。

私がこの学会賞創設の案を初めて伺ったのは、高橋浩夫先生が会長をされていた時期でした。高橋先生によると、本学会の創設者である水谷雅一先生より、お亡くなりになる3ヶ月ほど前に、「講演や執筆で貯めたお金があるので、そのお金を活用して学会賞を考えて欲しい」とのお電話があったそうです。しかし、その具体策について話し合おうという矢先に、水谷先生は逝去されたとのことです。

水谷先生が学会賞を創設したいと考えられた理由に関連して、高橋先生は、「水谷先生が若かりし会社員の頃、神奈川県労働基準監督署が共催で募集していた懸賞論文に応募されたところ、先生の論文が一席入賞として表彰されたことが、当時としては珍しかった企業派遣によって米国ハーバード大学ビジネススクールで学ぶ機会を得ることにつながったそうです。また、その米国での経験があったからこそ、その後の水谷先生の経営倫理分野の研究や、JABES、BERC、ACBEEといった経営倫理を日本社会に根づかせるための組織の創設という、先生の偉大な業績を生み出すことになったと考えられます。また、このようなご自身の経験から、水谷先生は若い研究者に何らかの刺激を提供したいといつも考えておられました」とのことです。そして実は、水谷先生が学会長をされていた時期に、学会では懸賞論文を設けて表彰したこともありました。

企業経営において人間性と社会性が実現されるような、経営倫理に根ざした社会の実現に寄与し得ることを心から念願されていた水谷先生のご遺志を受け継ぎ、高橋先生、そして前会長の梅津光弘先生がこれまで学会賞創設の準備を進められ、現在は、委員長の岡部幸徳先生を中心として学会賞委員会のメンバーの方々が作業を進めてくださっています。

以上のように、水谷先生を起点として、歴代の学会長をはじめとする学会員の方々のご努力と想いが詰まった本学会の学会賞が、日本における経営倫理研究の更なる発展とビジネスの繁栄に大きく寄与することを祈念しております。

< 水谷雅一賞募集要項 >

理事 岡部 幸徳 (帝京平成大学 教授)

本学会水谷雅一賞につきまして、委員会にて以下の通り進めてまいります。なお、学会員の皆様には、ぜひとも書籍部門の推薦本 (自薦他薦を問いません) を大いにお送り下さいますようによく御願い申し上げます。

- ・目的：日本経営倫理学会における研究活動の奨励と年間を通じた業績の評価
- ・期間：暦年における1年間
- ・表彰制度：水谷雅一 (論文) 賞及び水谷雅一 (書籍) 賞で構成
- ・応募期間：1月
- ・水谷雅一 (論文) 賞：「優秀賞」と「奨励賞」を選出
優秀賞：年2本程度 (表彰盾) / 奨励賞：年2本程度 (表彰盾)
審査対象：当年度の学会誌、学会ジャーナル (3月末発行分まで) 投稿されたもの
- ・水谷雅一 (書籍) 賞：1年間に発行された書籍を対象に応募制 (自薦・他薦)
年1本 (最高2本) (表彰盾)
審査対象：前年1月～12月迄に発行されたもの

第 12 回経営倫理シンポジウム開催について

シンポジウム実行委員長・常任理事 水尾 順一（駿河台大学 名誉教授）

新型コロナウイルスで、日本は新しい日常への転換が求められています。市民生活は勿論のこと、企業経営においても在宅勤務などのテレワークも含めて、これまでとは異なる新たな「働き方改革」が必要とされています。一方、社会的な動向として SDGs や ESG などの動向からも働き方改革は重要な視点となっています。

新型コロナウイルスの感染が収束した後も、テレワークは多くの組織で継続されると予測されています。その背景には Zoom や Skype など IT の進展も大きな原動力になっていることは否めません。勿論、その前提には、経営倫理の視点に立って社員の人権や人間性、社会性を重視することが重要であることはいまでもありません。

激変する環境下で、企業を中心として多様な組織のサステナビリティを探るため、人事制度の抜本改革やマネジメントとしての人材育成、さらにはその変革を後押しするガバナンスのあり方などが求められていることを踏まえ、こうした視点に立って日本経営倫理学会として、社会にその在り方を問うことは重要な使命と考え、本シンポジウムを実施いたします。

テーマ：With/After コロナと働き方改革

1. 日時：2021年3月10日(水) 12時45分～17時30分

2. 開催：オンライン

3. 参加費：無料

4. 概要（詳細は JABES ホームページ等で確認ください）

* 基調講演 1：出口治明氏（立命館アジア太平洋大学（APU）学長）

* 基調講演 2：上野幹夫氏（経営倫理実践研究センター理事長、中外製薬代表取締役副会長）

* パネルディスカッション：「New Normal 時代の働き方改革－その具体的 方向性と、実現に向けた課題および解決策を求めて－」

ファシリテーター：松田千恵子（東京都立大学教授、当学会理事）

パネリスト：馬越恵美子（桜美林大学副学長・教授、異文化経営学会会長、当学会常任理事）

能村幸輝氏（経済産業省産業人材政策室長）

Rochelle Kopp（ロッシェル・カップ）氏（北九州市立大学教授）

* クロージングスピーチ：「With/After コロナと働き方改革に向けた ACBEE の役割」 千賀瑛一（ACBEE 専務理事）

第 29 回研究発表大会開催のご案内

<ニューノーマル時代における経営倫理>

第 29 回研究発表大会実行委員長・理事 文 載皓（常葉大学 准教授）

2021 年度 6 月に開催を準備している第 29 回研究発表大会は、常葉大学主催で行われる予定である。今回掲げた本学会の統一論題は、コロナ禍という前代未聞の危機的な状況を反映したテーマとした。経営倫理を主なテーマとしている本学会として、ここ数年の社会が抱える諸課題にこたえる重要な機会であることは間違いないであろう。さらに今回の統一論題のテーマは、旧安倍政権が昨年度の 2019 年度から謳ってきた働き方改革とも関連する非常に重要な政策のキーワードでもある。

周知の通り、「ニューノーマル」という用語は、全人類が 2000 年代以後発生した様々な変化や危機的状況に直面し、それらの状況から脱却するために新たなノーマル（基準）が必要であるという認識をベースにしている。世界的な規模で発生している「負」の影響、例えば、まだ我々の記憶にも新しい 2008 年の金融危機や、現在発生している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などを含むパンデミックについて考える重要な時間と場となるであろう。

今回の学会では、未確定ではあるものの、登壇するキーノートスピーカーにヤマハやサムスンなどの多国籍企業の役員を招聘する予定である。今回は、とりわけ人事・労務管理上に見られる大きな変化に焦点を絞る。グローバルな事業展開を行っている企業であることに鑑み、現場で実際に発生している様々な問題や課題を取り上げ、特に経営倫理という観点から議論する貴重な機会となればと考えている。

『サステナビリティ経営研究』論文募集について

編集委員長・常任理事 高野 一彦（関西大学 教授）

日本経営倫理学会は、1994 年より毎年「日本経営倫理学会誌」を発刊しており、学会員による学術論文の投稿の場となっています。本年 6 月 20 日の本学会総会において、この学会誌とは別に、より実務的な論文等の発表の場として新雑誌の発刊が承認されました。

新雑誌の名称は「サステナビリティ経営研究（Sustainability Studies in Business : SSB）」です。募集対象は「論文」と「事例

研究・調査報告」の2種類です。「論文」は、速報性、新規性、実践性、社会貢献性に優れた論文を対象とし、また「事例研究・調査報告」は、論文としての結論に至っていないものであっても、事例分析や調査結果の速報など、社会的意義があるものを対象としています。例えば「〇〇事件の第三者委員会報告書の評価と提言」、「企業の被災者支援の実態に関する調査報告」などです。

投稿して頂いた論文等については、学会が発行する雑誌として許容される外形的及び内容的要件を充足しているかどうかについて掲載審査を行います。外形的要件は学会誌の表記ルールに準じますが、内容的要件は学会誌と違い、先行研究の十分性を必ずしも掲載の要件としていません。これにより実務家の方も投稿しやすいのではないかと思います。

新雑誌は、締切を設けず投稿を受け、掲載審査を通過したものを随時、本学会のホームページに掲載します。掲載された段階で、論文等は公表（発行）されたこととなります。また本学会ホームページに掲載された論文等の中から編集委員会が選定したものについて、年1回程度、紙媒体の雑誌に収録して発刊する予定です。

掲載審査基準を含む募集の詳細は、本学会ホームページに掲載している『「サステナビリティ経営研究」原稿募集要項』をご参照下さい。多くの学会員の投稿をお待ちしております。

自著紹介

『3ステップで学ぶ 自治体SDGs』全3巻

理事 笹谷 秀光（千葉商科大学 教授）



第1巻『基本Q&A』、第2巻『実践メソッド』、第3巻『事例』の構成です。自治体関係者、地方創生SDGsビジネス、金融機関、メディア、アカデミアの方々向けです。

新型コロナウイルス後の「ニューノーマル」と「グレートリセット」についても触れました。社会の大きな変革の中で、SDGsは、ますます不可欠な「羅針盤」になっていきます。SDGsは自主的取り組みですので、どんどん差がつかます。そこがSDGsの怖さです。乗り遅れないよう、この三部作で「未来まちづくりSDGs」を進めましょう。

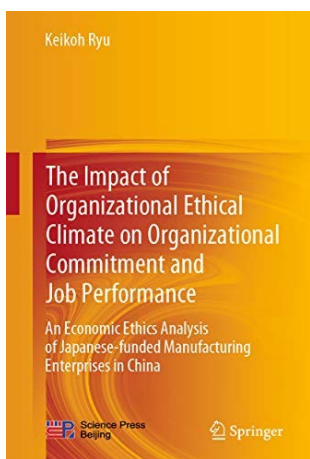
筆者は農林水産省、株式会社伊藤園、現在は千葉商科大学と、一人で「産官学」を経験し、その集大成であった、「Q & A SDGs 経営」（日本経済新聞出版・2019年9月）も生かしています。また、本書に関連し、筆者が実行委員長を務めている「未来まちづくりフォーラム」にもご期待ください（2021年2月24日（火）開催決定）。

■サイトはこちら miramachi.jp ■著者公式サイト—発信型三方良し— <https://csrsdg.com/>
【ぎょうせい 2020年11月 定価各巻1500円（税別）】

自著紹介

『*The Impact of Organizational Ethical Climate on Organizational Commitment and Job Performance: An Economic Ethics Analysis of Japanese-funded Manufacturing Enterprises in China*』

常任理事 劉 慶紅（立命館大学 教授）



本書では、中国における日系製造業を対象とし、従来は定性分析が主であった経営倫理分野に組織倫理風土という定量化可能な概念の導入し、インタビュー調査による定性分析及び主成分分析・構造方程式モデリングを組み合わせることで、観察変数間の関係を明らかにし、組織倫理風土が組織のコミットメントとジョブパフォーマンスに与える影響を分析した。結果として組織コミットメントとジョブパフォーマンスの改善を望む企業は、組織倫理風土の醸成に注力することが重要であるというインプリケーションが示されるなど、経営倫理における組織倫理風土の重要性が明らかとなった。またこの研究により、これまで定性的な研究を中心に展開されてきた経営倫理領域において、定量的な分析の適用範囲を拡大する素地を開拓した。こうした学際的なアプローチのもと、抽象度の高い哲学における「経営倫理」概念そのもの研究から具体的な企業活動など経済学および経営学における実践フェーズまでを対象とする、「川上」から「川下」までの一貫した研究展開を行う異分野異種接合を試みた例はなく、学問領域の垣根を超えた研究の深化を図っている。

【Publisher: Springer/ Publication date: April 2020/ Pages: 200/ Price: \$109.99】

理事会議事録（要旨）

≪第172回理事会≫

日時：2020年9月12日（土）11:00～13:40

場所：経営倫理実践研究センター・会議室及び
理事各位の執務場所（ZOOM 参加）

1. 新入退会者承認：新入会員4名、退会9名
会員数は492名に。
2. 2021年度総会・研究発表大会開催
3. 研究部会補助金申請
4. 押印廃止
5. 法政大学大学院政策創造研究科シンポジウム共催・講演

依頼

6. 年会費滞納への対応
- 【以下、報告事項】
7. 2020年度経営倫理シンポジウム開催
 8. 新ジャーナル
 9. 国際交流事業
 10. 第10回CSR構想インターゼミナール実施
 11. 研究法ワークショップ開催報告

2020年度年会費納入のお願い

年次総会で決議されました通り、学会諸活動を推進する財源である年会費の納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇年会費支払いの確認は事務局まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切り換えをお願いいたします。

メールアドレスご登録のお願い

当学会事務局では今後、会員の皆様への周知事項はJABESウェブサイトへの掲載及び、電子メールによる配信を中心に行ってまいります。メールアドレスを未登録の方は事務局（info@jabes1993.org）までご連絡ください。皆様のご理解ご協力のほど、お願いいたします。

* 学会誌の配布、その他限られたもの以外、原則郵送いたしません。

* 現在、郵送しております会員でメールアドレスを登録されている方へは順次電子メールでの配信に切り替えさせていただきます。

* メール受信許可設定のお願い

迷惑メール対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合がございます。

「@jabes1993.org」の受信設定をお願いいたします（jabes1993.orgはJABES事務局のドメインです）。

学会報誌面充実にかかる原稿募集のご案内

- 1) 会員によって執筆された単行本の自著紹介
- 2) 海外研修・留学報告
- 3) 他学会・国際会議等参加報告
- 4) 日本経済学会連合の補助事業募集などの案内

年3回（7、11、2月頃）の発行スケジュールに合わせ、随時、上記のテーマでの投稿を受付けています。一つのトピックにつき400字程度以内で当学会事務局までお送りください。写真（画像データ）を添付いただいても結構です。なお誌面全体の割り付けの関係で、適宜、投稿内容を編集させていただくことをご了承ください。誌面充実のため、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒107-0052

東京都港区赤坂1-1-12

明産溜池ビル8F

電話：03-6441-0640

FAX：03-6441-0641

E-mail：info@jabes1993.org

担当：高浦常任理事（会報）

河口常任理事（総務）

発行：日本経営倫理学会

編集後記

コロナ禍は依然として収束の道筋が見えません。そのなかでの編集作業となりました。1年前の手帳を開くと、当たり前のように会議や会食の日程が詰まっています。年末から年始にかけては、大人数の宴会も散見されます。そして、今。夕方からのスケジュールは疎らで、それも「zoom」や「teams」と書き添えたものばかりです。先般、来春からのゼミ生のリモート面接をしましたが、1年生の一人は函館からの参加でした。憧れのキャンパスに足を踏み入れたのは、受験の下見が最後。入学前4月からはずっと実家でパソコン授業を受けているとのことでした。本学会もzoomが当たり前になりました。これが、研究発表大会のご案内にもあった「ニューノーマル」になるのか。それとも一時的なものに終わるのか。やはり対面での侃々諤々が望ましいのですが。

（編集担当 / 荻野）